平成２７年度

モデル校における English Time 授業案

学校名：　玉城町立下外城田小学校

実施学年	第５学年
単元名	Lesson 4 Turn right. (Hi, friends!2)

本時の目標	「Go straight」「Turn right.」「Turn left.」の表現を使って、宝探しのナビをすることができる。
準備物	Phonics DVD、Joy Joy MIEnglish（Picture card）、レゴブロック

＜本時の流れ＞

学習活動	教師の支援・留意点
1　あいさつをする。	・ALT 先生とあいさつをする ・今日の月・日・曜日・天気を全員で確認する。 ・毎回続けている「教室掲示」の単語を２つ、ジェスチャーを交えて練習する。
2　Phonics Challenge	・「A says A A Apple.」の練習を繰り返し行ってきたことで、A から Z までの音読みはずいぶん定着してきた。それらを生かして「fan」「van」「man」など、ALT が作ったカード等を使って実際に単語を読むことにチャレンジさせたい。
3 Joy Joy MIEnglish（Section19 Places）を使って、場所の名前に慣れ親しむ。	・リズムに乗って、抵抗なく場所の名前に慣れ親しめるよう、導く。 ・ピクチャーカードも使って、視覚的にも理解が図られるようにする。
4　学習の見通しを立てる。	

＜めあて＞
「Go straight」「Turn right.」「Turn left.」の表現を使って、宝探しをしよう。

	・今日のめあてを全員で声に出して読んだ後、ふりかえりシートに記入して確認する。 ・レゴブロックで作った宝を教室に隠しておき、ペアの子を宝の隠し場所まで「Go

５　学習のふりかえりを行う。	straight.」「Turn right.」「Turn left.」を使って、導く。 ・宝を見つけたら、「What's this?」「Wow!」「I like this.」など使える表現を用いて、宝について会話する。
＜まとめ＞ ・「Go straight.」「Turn right.」「Turn left.」を使って案内をし、ペアの子が宝を見つけることができた。 ・ペアの子の「Go straight」「Turn right.」「Turn left.」を聞いて、宝までたどりつくことができた。	
６　あいさつをする。	・ふりかえりシートを使って、「英語を進んで話せたか」「進んで聞けたか」「今日の授業は楽しかったか」についてふりかえり、今日の学びを文章で書く。 ・ALT 先生とあいさつをする。

＜授業を終えての成果と課題＞

成果について、フォニックス・Joy Joy MIEnglish・レゴブロックの３つについて、それぞれ述べていく。

まず、フォニックスでは指導案にも書いたように、前年度からの取り組みの成果が見られた。４月の時点で「A says A A Apple.」から「Z says Z Z Zebla.」まで大きな声で自信を持って言える子が多いことに驚いた。早い時期からフォニックス指導を始める効果を感じた。

ある日、Hi, friends!2 の Lesson 3「I can swim.」の単元を学習している時に、ピクチャーカードを用いて、フラッシュカード方式で単語練習を行っていた。何回練習しても、子どもたちが「ride」を【**rάɪd**】ではなく、【rid】と誤って発音してしまう実態があった。その時、ALT が「ride」の「e」を指して、「This is magic E」と言ったので、よいタイミングだと思い、「Magic E」の DVD を見ながら、理解を促した。そうすると、発音の間違いはなくなり、正しく読めるようになった。フォニックスは文字と音の規則性だが、それを提示すると子どもたちの理解を促進できることも明らかにできた。

次に、Joy Joy MIEnglish については、本時の授業では CD に合わせて外国語活動当番の子が前に出て、大型テレビを指示棒で指す場面をつくった。教師が指し示すよりも、子どもたちが行った方が、他の子たちもよく見ようとする上に、当番の子ども本人の力にもなると考えた。

その後も外国語活動の時間はもちろん、朝の会でも Joy Joy MIEnglish を使用した。すべてのセクションはできなかったが、トラック４～８の「ケンタローと一緒に英語を言いながら動作しよう」は、クラスルームイングリッシュの定着に効果があった。ジェスチャーを入れながら学習するので、英語表現と意味が理解しやすかったようである。クラスルームイングリッシュが定着することによって、外国語活動でも ALT や HLT

の英語での指示も通りやすくなった。

最後に、レゴブロックの成果について述べたい。本時の前に「ペアの子にレゴブロックでプレゼントを作ろう。」という時間を持った。ペアの子には見せないように制作したが、子どもたちはお互いのことをよく知っており、『ペアの子は野球が好きだから』とバットとボールをつくり始める子。『文化祭の時に、ペアの子が城をつくっていたから』とレゴでもゴージャスな城をつくり、その上にペアの子を乗せるなど、自分がつくりたい物ではなく、相手が望む物をつくって喜ばせようという気持ちが一つひとつの作品に表れていた。

レゴブロックを取り入れる度に思うことは、「子どもたちはレゴブロックを触るのが好き。」ということである。実際に年度末の「英語に関するアンケート」では、１８人中１５人がレゴブロックの活動が好きだと答えていた。

さらに、先に述べたようにレゴブロックには、子どもたち同士をつなぐ効果があるということである。相手がつくったものが何なのか知りたい、聞いてみたい、反対に自分がつくったものを見てほしい、伝えたいという内発的な意欲が自然とわいてくるのである。これは、絵を描いて見せたり、粘土でつくって見せたりすることでは、実現できない効果であると考える。研修会で「その子の創造性なので、レゴブロックで何をつくっても自由だということ、つくったものがいろんな物に見えて完全ではないので、知りたくなる、伝えたくなるのだ」ということを聞いて、共感した。

続いて、見えてきた課題について２点述べる。

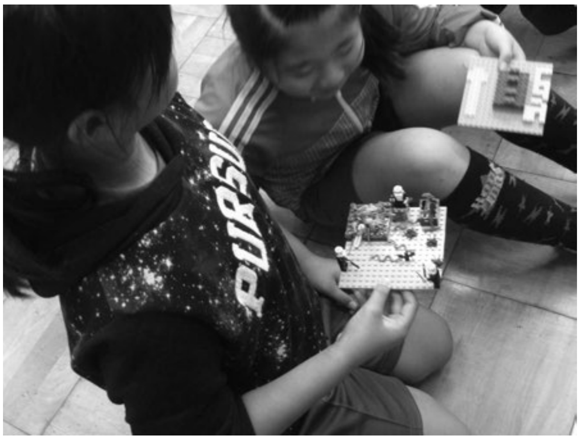
１点目は、「授業者はどこまで授業中、英語を用いるか」についてである。言い換えると、「どこまで日本語を話すか」ということにもなるが、これは以前から自分自身の中で迷いがあった点でもあった。本授業をきっかけに、いろいろな方の意見を聞いてみたいという思いもあった。参観者からは、「無理にオールイングリッシュを通さなくてもいいのではないか。」という意見をいただいた。さらに、「英語でトライしてだめだったら、日本語で。」という考えも出していただいた。

そこから自分の学びとしたことは、教師が無理に英語を使うことで、小学校段階で英語嫌いや、英語への抵抗感を持たせてしまっては、何のための外国語活動なのか、本末転倒であり、小学校の時から外国語を学ぶ楽しさ・喜びを十分に味わわせるためにはどうすればよいかという視点に常に立って、一つひとつの活動を進めていくことこそが重要だということである。

課題の２点目は、ふりかえりについてである。本時では、活動で授業が終わってしまい、ふりかえりの時間がとれなかった。他教科、特に算数科でふりかえりを積み重ねることで、教師側からすれば子どもたちのつまずきや思い、理解度が把握できる。また、子どもたちが自分の言葉や式や図で授業のポイントや学びを書くことで、理解が図られた。それならば、外国語活動でもふりかえりの時間を確保し、子どもの学びにつなげることが必要である。

今回の公開授業での成果は、私にとって次へのステップアップの機会となることができた。また、課題については自らのウィークポイントが明らかになり、修正していく点がはっきりとした。

今後も子どもたちが学ぶ喜びを感じられる外国語活動を展開していきたい。



pin
tin

bin
fin
pin
tin